

久慈地区汚泥再生処理センター整備・運営事業者選定委員会（以下「選定委員会」という。）は、久慈広域連合（以下「連合」という。）が平成 30 年 2 月 16 日に公告した「久慈地区汚泥再生処理センター整備・運営事業」の総合評価一般競争入札に係る事業者提案について、基礎審査を実施後、提案書及び入札価格について定量化審査により総合的に審査を行った。

連合は、選定委員会による審査の結果を踏まえ、落札者を決定したので、選定委員会における客観的な評価の結果を審査講評として公表する。

平成 30 年 8 月 31 日

久慈広域連合 広域連合長 遠 藤 譲 一

久慈地区汚泥再生処理センター
整備・運営事業
審査講評

平成30年8月

久慈地区汚泥再生処理センター
整備・運営事業者選定委員会

久慈地区汚泥再生処理センター整備・運営事業 審査講評 目 次

第1章 事業概要.....	1
1 事業名称.....	1
2 公共施設の概要等	1
3 事業期間.....	1
4 事業方式.....	1
5 事業範囲.....	1
第2章 審査方法等	3
1 入札の方法.....	3
2 落札者選定までの経過	3
3 選定委員会の設置	4
4 選定委員会の開催経過	4
5 落札者選定の手順	5
6 審査手順.....	6
第3章 最優秀提案者選定結果	9
1 資格審査.....	9
2 提案書の基礎審査	9
3 提案書の定量化審査及び提案書に関するヒアリング	9
4 入札価格の定量化審査	14
5 総合評価値の算出	15
6 最優秀提案者の選定	15
第4章 総評.....	16

第1章 事業概要

1 事業名称

久慈地区汚泥再生処理センター整備・運営事業

2 公共施設の概要等

(1) 名称

久慈地区汚泥再生処理センター

(2) 建設予定地

項 目	概 要
所在地	岩手県九戸郡洋野町中野第7地割字尺沢30-10他
敷地面積	約11,512 m ²

(3) 施設の概要

施設の種類	概 要	
汚 泥 再 生 処 理 センター	処理方式	水処理:膜分離高負荷脱窒素処理方式(1段膜方式) 資源化:堆肥化方式
	処理能力	105kL/日 (し尿:65kL/日、浄化槽汚泥32kL/日、有機性廃棄物8kL/日)

3 事業期間

事業期間等は、以下のとおりである。

事業期間 : 特定事業契約締結日から約22.5年間とする。

設計・建設期間 : 特定事業契約締結日から平成33年(2021年)3月31日とする。
(本施設の竣工:平成33年(2021年)3月31日とする。)

運営・維持管理期間 : 平成33年(2021年)4月1日から平成53年(2041年)3月31日とする。

4 事業方式

久慈地区汚泥再生処理センター整備・運営事業(以下「本事業」という。)は、久慈地区汚泥再生処理センター(以下「本施設」という。)の設計・建設及び運営に係る業務を事業者が一括して行うDBO(Design:設計、Build:建設、Operate:運営)方式により実施する。

久慈広域連合(以下「連合」という。)は、本施設の設計・建設及び運営に係る資金を調達し、本施設を所有する。

また、連合は、本施設を30年間以上にわたって使用する予定であり、事業者は、30年以上の使用を前提として本事業を実施する。

5 事業範囲

事業者が行う本事業の業務範囲は次のとおりである。

(1) 設計・建設業務

ア 建設事業者は、連合と締結する建設工事請負契約に基づき、本施設の設計・建設業務を行う。

また、本事業を行うために必要な許認可の取得を行う。

イ 建設については、土木及び外構工事、建築物及び建築設備工事、機械設備工事、電気計装設

備工事、配管工事及びその他の関連工事を行う。

ウ 建設事業者は、本施設の建設等に伴って発生する建設廃棄物等の処理・処分及びその他の関連業務、計画通知等の手続関連業務、本施設の試運転及び引渡性能試験を行う。

(2) 運営業務

ア 運営事業者は、連合と締結する運営・維持管理業務委託契約に基づき、処理対象物を受け入れ、要求水準を満足する適正な処理を行う。なお、その際に、本施設の運営・維持管理業務として受付・受入管理業務、運転管理業務、用役管理業務、維持管理業務、環境管理業務、情報管理業務、資源物・副生成物管理業務、その他関連業務等を行う。

イ 運営事業者は、本施設を運転することにより生産される堆肥について、連合から買い取り、資源化を行うものとする。運営事業者は、堆肥を第三者に販売し、堆肥販売に係る収入については、運営事業者の収入とする。

ウ 運営事業者は、本施設を運転することにより発生したし渣及び沈砂を施設内に貯留、搬出し、連合が指定する施設まで運搬し引き渡す。

エ 運営事業者は、本施設の見学希望者等については連合と連携して適切な対応を行う。

第2章 審査方法等

1 入札の方法

入札の方法は、地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第167条の10の2に規定する総合評価一般競争入札方式により実施した。

2 落札者選定までの経過

落札者選定の経過は、表1のとおりである。

表1 落札者選定の経過

日 時	内 容
平成30年 2月 16日(金)	入札公告 入札説明書等の公表
平成30年 2月 16日(金) ～ 3月 9日(金)	入札説明書等に関する質問受付(第1回)
平成30年 3月 2日(金)	現地見学会
平成30年 3月 23日(金)	入札説明書等に関する質問回答(第1回)の公表
平成30年 3月 26日(月) ～ 3月 30日(金)	参加表明書及び資格審査申請書類の受付
平成30年 4月 6日(金)	資格審査結果の通知
平成30年 4月 9日(月) ～ 4月 13日(金)	資格審査結果に関する説明要求の受付
平成30年 4月 20日(金)	資格審査結果に関する説明要求の回答
平成30年 4月 9日(月) ～ 4月 13日(金)	対面的対話における確認事項及び入札説明書等に関する質問(第2回)の受付
平成30年 5月 9日(水)	対面的対話の実施
平成30年 5月 22日(火)	対面的対話議事録及び入札説明書等に関する質問回答(第2回)の公表
平成30年 6月 15日(金)	入札提案書類の受付期限
平成30年 7月 31日(火)	入札提案書類に関するヒアリング、審査
平成30年 7月 31日(火)	開札
平成30年 7月 31日(火)	最優秀提案者の選定
平成30年 8月 7日(火)	落札者の決定
平成30年 8月 7日(火)	落札者の公表

3 選定委員会の設置

提案審査は、公平性及び透明性を確保し、専門的知見に基づく評価を行うことを目的に、学識経験者等6名の委員により構成される久慈地区汚泥再生処理センター整備・運営事業者選定委員会（以下「選定委員会」という。）において行った。

[委員の構成]

委員長	荒井 喜久雄	公益財団法人全国都市清掃会議 技術指導部長
副委員長	中居 正剛	久慈市 副市長
委員	海田 輝之	岩手大学 名誉教授
委員	日當 博治	洋野町 副町長
委員	高橋 正志	野田村 副村長
委員	坂下 広見	普代村 住民福祉課長

4 選定委員会の開催経過

本事業の事業者選定における選定委員会の開催経過は、表2のとおりである。

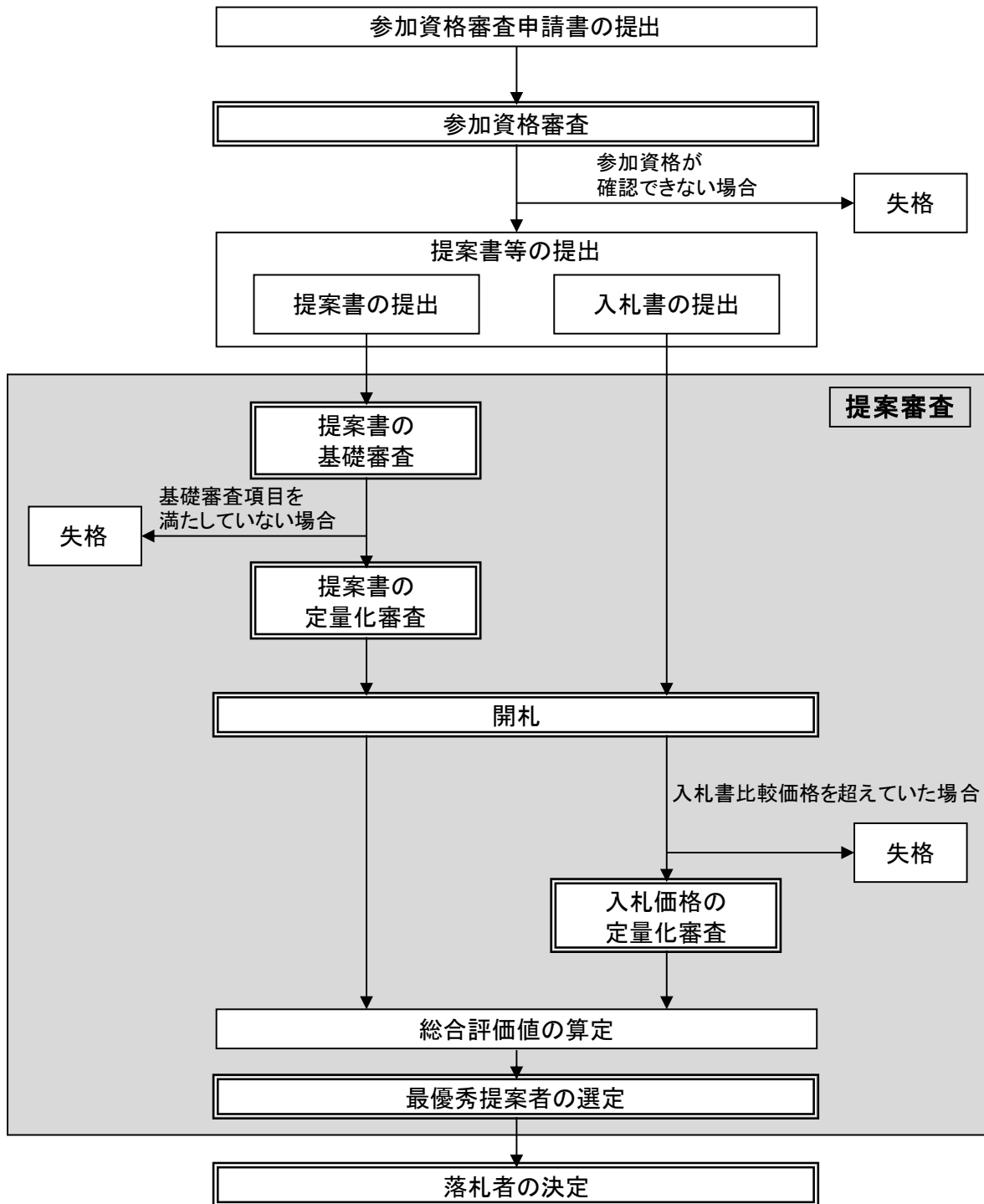
表2 選定委員会の開催経過

日 付	内 容
平成29年 10月 24日 (火)	第1回選定委員会 (委員会スケジュールと審査の流れに関する説明、実施方針(案)の説明、落札者選定基準に係る審議)
平成29年 11月 24日 (金)	第2回選定委員会 (入札公告書類に係る審議)
平成29年 12月 27日 (水)	第3回選定委員会 (入札公告書類に係る審議、承認)
平成30年 7月 12日 (木)	第4回選定委員会 (提案書の基礎審査、提案内容に係る意見交換)
平成30年 7月 31日 (火)	第5回選定委員会 (事業者ヒアリング、提案書の定量化審査、開札、入札価格の定量化審査、最優秀提案者の選定、審査講評の審議)

なお、本事業の事業者選定に先立ち、久慈広域連合は、選定委員会により、地方自治法施行令第167条の10の2第4項、地方自治法施行規則第12条の4の規定に基づく「2人以上の学識経験者の意見」を聴取し、落札者選定基準を策定した。

5 落札者選定の手順

落札者選定の手順については、図1のとおりである。



※最優秀提案者を選定する委員会の事務は図中網掛け部分

図1 落札者選定の手順

6 審査手順

(1) 参加資格審査

参加資格審査は、参加表明書及び参加資格審査申請書の提出書類により、入札説明書に記載の入札参加者の備えるべき参加資格要件を満たしていることを事務局において確認した。

(2) 提案審査

ア 提案書の基礎審査

選定委員会は、提案書等に記載された内容が、落札者選定基準に示す基礎審査項目を満たしていることを確認した。確認内容は、表3のとおりである。

表3 確認内容

確認項目	内 容
提案書等の確認	・ 提出された提案書等がすべて揃っていること。
提案書の基礎審査	・ 提案書の内容が要求水準書に示す要求水準を満たしていること。 ・ 入札説明書及び様式集に示す提案書の作成に関する条件について違反のないこと。 ・ 提案書全体について、同一事項に対する2通り以上の提案又は提案事項間の齟齬、矛盾等がないこと。

イ 提案書の定量化審査

(ア) 審査項目及び配点

選定委員会は、表4に示す審査項目及び配点に対し、提案書等に記載された内容について審査した。

表4 審査項目及び配点

審査項目			No.	配点
大項目	中項目	小項目		
1 事業計画に関する事項				20点
	(1) 事業実施の基本方針			2点
	① 基本方針		1	2点
	(2) 環境への配慮			9点
	① 環境負荷低減対策		2	3点
	② 環境教育		3	2点
	③ 資源循環の推進		4	4点
	(3) 災害時対策			3点
	① 災害時の対応		5	3点
	(4) 地域経済活性化			6点
	① 地元貢献		6	6点
2 設計・建設工事に関する事項				26点
	(1) 施設全体計画			10点
	① 施設配置計画、屋外(車両)動線計画		7	4点
	② 機器配置計画、屋内(作業、見学者)動線計画		8	4点
	③ 意匠計画(景観)		9	2点
	(2) 施設建設工事			5点
	① 工事工程及び工事実施体制		10	2点
	② 工事期間中の安全対策及び周辺対策		11	3点
	(3) 施設性能に関する考え方			11点
	① 水処理の安定性		12	3点
	② 資源化システム		13	3点
	③ 臭気対策		14	3点
	④ 搬入物の質や量の変動に対する対応力		15	2点
3 運営・維持管理に関する事項				12点
	(1) 運営・維持管理体制			4点
	① 運営・維持管理体制		16	4点
	(2) 長寿命化対策			4点
	① 設備・機器の長寿命化対策		17	4点
	(3) 維持管理性と作業安全性の確保			4点
	① 維持管理性と作業安全性の確保		18	4点
4 自由提案				2点
	(1) 大項目1～3以外の自由提案		19	2点
5 入札価格に関する事項				40点
	(1) 入札価格		20	40点

(イ) 事業提案に関する得点化方法

提案を求めている審査項目においては、表5に示す5段階評価により審査を行い、各委員が個別に行った評価の平均値により得点化を行った。

なお、選定委員会は、最終的な審査を下す前に、提案書に関するヒアリングを実施し、提案内容の確認等を行った。

表5 審査基準

評価	審査基準	得点化方法
A	当該評価項目において特に優れている	配点×1.0
B	AとCの中間程度	配点×0.75
C	当該評価項目において優れている	配点×0.5
D	CとEの中間程度	配点×0.25
E	当該評価項目において優れているとは認められない	配点×0.0

ウ 入札価格の定量化審査

入札価格の定量化審査においては、入札価格について、表6に示す得点算定式により、入札価格を構成する設計・建設業務に係る対価及び運営業務に係る対価のそれぞれを得点化した。

なお、定量化限度額は、入札書比較価格を構成する設計・建設業務に係る内訳額（消費税及び地方消費税を含まない）に対して事前に設定した価格であり、開札時に発表した。

表6 入札価格の得点算定式

○入札価格を構成する設計・建設業務に係る対価	
【最低入札価格（設計・建設業務に係る対価）＞定量化限度額の場合】	
$\left(\begin{array}{l} \text{当該入札参加者の入札価格（設計・建設} \\ \text{業務に係る対価）の定量化審査の得点} \end{array} \right) = 15 \text{点} \times \left(\frac{\text{最低入札価格（設計・建設業務に係る対価）}}{\text{入札価格（設計・建設業務に係る対価）}} \right)$	
【最低入札価格（設計・建設業務に係る対価）≤定量化限度額の場合】	
$\left(\begin{array}{l} \text{当該入札参加者の入札価格（設計・建設} \\ \text{業務に係る対価）の定量化審査の得点} \end{array} \right) = 15 \text{点} \times \left(\frac{\text{定量化限度額}}{\text{入札価格（設計・建設業務に係る対価）}} \right)$	
※入札価格（設計・建設業務に係る対価）が定量化限度額以下の入札参加者の得点＝15点満点	
○入札価格を構成する運営・維持管理業務に係る対価	
$\left(\begin{array}{l} \text{当該入札参加者の入札価格（運営・維持} \\ \text{管理業務に係る対価）の定量化審査の得点} \end{array} \right) = 25 \text{点} \times \left(\frac{\text{最低入札価格（運営・維持管理業務に係る対価）}}{\text{入札価格（運営・維持管理業務に係る対価）}} \right)$	

エ 総合評価値の算出

表7に示す算定式により、各入札参加者の総合評価値を算出した。

表7 総合評価値の算出方法

$\left(\begin{array}{l} \text{当該入札参加者の} \\ \text{総合評価値} \end{array} \right) = \left(\begin{array}{l} \text{当該入札参加者の} \\ \text{提案書の定量化審査の得点} \end{array} \right) + \left\{ \begin{array}{l} \text{当該入札参加者の} \\ \text{入札価格の定量化審査の得点} \end{array} \right\}$	$\left\{ \begin{array}{l} \text{入札価格（設計・建設業務に係る} \\ \text{対価）の定量化審査の得点} \end{array} \right\} + \left\{ \begin{array}{l} \text{入札価格（運営・維持管理業務に} \\ \text{係る対価）の定量化審査の得点} \end{array} \right\}$
--	---

第3章 最優秀提案者選定結果

1 資格審査

平成30年2月16日に入札公告を行い、平成30年3月26日から3月31日の間に参加表明書及び参加資格審査申請書を受け付けたところ、以下の3グループから申請があった。

連合は、参加資格の確認を行い、平成30年4月6日に代表企業に対し、入札参加資格を有することを書面にて通知した。

表8 参加表明書及び参加資格審査申請書等提出グループ

グループ名	あおグループ	みどりグループ	きいろグループ
代表企業	日立造船株式会社 東北支社	水ing株式会社 東北支店	三井E&S環境エンジニアリング株式会社
構成員	宮城建設株式会社 下館建設株式会社 アタカメンテナンス株式会社 有限会社中野衛生社	水ingAM株式会社 山田建設株式会社	株式会社プライム下館工務店 株式会社カンキョウ 久慈地区環境事業協同組合
協力企業			栄大建設株式会社 沢川電気有限会社

なお、選定委員会による審査にあたっては、審査の公平性を期すため、提案書等すべての書類において各グループの企業名は伏せ、表8のグループ名で識別して審査を行った。

2 提案書の基礎審査

平成30年6月15日までに入札参加資格を有する3グループより提案書等が提出された。

提出された提案書等をもとに基礎審査項目に沿って基礎審査を行った。提案書等を提出した3グループは、いずれも連合が要求する水準を満足していること等が確認されたため、基礎審査に合格しているものと認められた。

3 提案書の定量化審査及び提案書に関するヒアリング

選定委員会は、平成30年7月31日に提案書の定量化審査を行った。審査に際しては、提案書に関する入札参加者による説明（プレゼンテーション）及び委員による提案内容に対する質疑（ヒアリング）を実施し審査を行った。

定量化審査の審査項目について、適確な提案がなされているかの審査を行い、提案書に関する得点化を行った。なお、評価は、連合の要求する水準を満たしたうえで、より優れた提案に対して評価を行う加点方式である。

審査結果を表9に示す。

表 9 提案書の定量化審査の得点結果

審査項目			No.	配点	あお グループ	みどり グループ	きいろ グループ
大項目	中項目	小項目					
1	事業計画に関する事項		-	20点	16.55	11.87	8.62
	(1)	事業実施の基本方針	-	2点	1.67	1.08	0.83
		① 基本方針	1	2点	1.67	1.08	0.83
	(2)	環境への配慮	-	9点	7.50	5.16	4.29
		① 環境負荷低減対策	2	3点	2.50	2.00	1.38
		② 環境教育	3	2点	1.67	1.33	1.08
		③ 資源循環の推進	4	4点	3.33	1.83	1.83
	(3)	災害時対策	-	3点	2.38	1.88	1.50
		① 災害時の対応	5	3点	2.38	1.88	1.50
	(4)	地域経済活性化	-	6点	5.00	3.75	2.00
		① 地元貢献	6	6点	5.00	3.75	2.00
2	設計・建設工事に関する事項		-	26点	19.75	14.84	12.80
	(1)	施設全体計画	-	10点	8.58	4.83	4.25
		① 施設配置計画、屋外(車両)動線計画	7	4点	3.50	1.83	2.00
		② 機器配置計画、屋内(作業、見学者)動線計画	8	4点	3.50	2.00	1.67
		③ 意匠計画(景観)	9	2点	1.58	1.00	0.58
	(2)	施設建設工事	-	5点	3.83	2.80	2.13
		① 工事工程及び工事实施体制	10	2点	1.58	1.17	1.00
		② 工事期間中の安全対策及び周辺対策	11	3点	2.25	1.63	1.13
	(3)	施設性能に関する考え方	-	11点	7.34	7.21	6.42
		① 水処理の安定性	12	3点	2.25	1.88	1.75
		② 資源化システム	13	3点	1.88	2.00	1.75
		③ 臭気対策	14	3点	1.88	2.00	1.75
		④ 搬入物の質や量の変動に対する対応力	15	2点	1.33	1.33	1.17
3	運営・維持管理に関する事項		-	12点	9.00	6.17	5.66
	(1)	運営・維持管理体制	-	4点	2.83	2.00	1.83
		① 運営・維持管理体制	16	4点	2.83	2.00	1.83
	(2)	長寿命化対策	-	4点	3.17	2.17	1.83
		① 設備・機器の長寿命化対策	17	4点	3.17	2.17	1.83
	(3)	維持管理性と作業安全性の確保	-	4点	3.00	2.00	2.00
		① 維持管理性と作業安全性の確保	18	4点	3.00	2.00	2.00
4	自由提案		-	2点	1.58	0.92	0.75
	(1)	大項目1～3以外の自由提案	19	2点	1.58	0.92	0.75
提案書の定量化審査の得点 計			-	60点	46.88	33.80	27.83

提案書に関する各審査項目における講評は、表 10 のとおりである。

表 10 各審査項目の講評

審査項目	講評
1 事業計画に関する事項	
(1) 事業実施の基本方針	
① 基本方針	・ 各グループとも、連合の基本方針を踏まえた事業実施の基本方針が提案されている点等を評価した。 ・ 特に、あおグループは、地域の発展に関して優れた方針が提案されている点の評価した。
(2) 環境への配慮	
① 環境負荷低減対策	・ 各グループとも、環境影響評価準備書を遵守することを前提とし、様々な対策や取組みが提案されている点等を評価した。 ・ 特に、あおグループは、生態系、振動、騒音に関する個別の対策が特に具体的で優れている点の評価した。
② 環境教育	・ 各グループとも、具体的な環境学習メニューが提案されている点等を評価した。 ・ 特に、あおグループは、施設見学への協力内容について、具体的な提案がされている点の評価した。
③ 資源循環の推進	・ 各グループとも、計画性のある具体的な堆肥の利活用方法が提案されている点等を評価した。 ・ 特に、あおグループは、長期的な取引先の確保や安定的かつ確実な堆肥利用のための施策が具体的に提案されている点の評価した。
(3) 災害時対策	
① 災害時の対応	・ 各グループとも、計画性のある安全・安心な災害対策が提案されている点等を評価した。 ・ 特に、あおグループは、比較的安価で有効な水害対策が提案されている点の評価した。
(4) 地域経済活性化	
① 地元貢献	・ 各グループとも、地元貢献(企業、人材育成等)の効果や雇用の創出について具体的な提案がされている点等を評価した。 ・ 特に、あおグループは、管内の催事への協賛や地元企業との連携等が具体的に提案されている点の評価した。

審査項目	講評
2 設計・建設工事に関する事項	
(1)施設全体計画	
①施設配置計画、屋外(車両)動線計画	- 各グループとも、土地の形状を踏まえた敷地の有効利用を考慮した施設配置計画が提案されている点等を評価した。 - 特に、あおグループは、建設予定地を最大限利用したゆとりある施設配置であり、車両動線も幅広いことで安全性の確保が期待できる提案がされている点等を評価した。
②機器配置計画、 屋内(作業、見学者)動線計画	- 各グループとも、実績を踏まえた効率的な機器配置となっており、効果的で安全な維持管理・運営が可能となる配置計画や動線が提案されている点等を評価した。 - 特に、あおグループは、作業動線が分断されないことに加え、見学者に対する避難経路の分かりやすさや身障者対応が提案されている点等を評価した。
③ 意匠計画(景観)	- 各グループとも、美観的な施設デザインが提案されている点等を評価した。 - 特に、あおグループは、し尿処理施設としてのイメージを無くすことで、周辺環境にも溶け込む意匠計画が提案されている点等を評価した。
(2)施設建設工事	
①工事工程及び工事実施体制	- 各グループとも、実効性があり工期を遵守するための工事工程及び工事実施体制が提案されている点等を評価した。 - 特に、あおグループは、工期遵守のための具体的な提案がされている点等を評価した。
②工事期間中の安全対策及び周辺対策	- 各グループとも、工事期間中の安全確保や周辺対策が提案されている点等を評価した。 - 特に、あおグループは、防災対策に加え、動植物保護や放流地点の事後調査等の周辺環境対策について具体的な提案がされている点等を評価した。
(3)施設性能に関する考え方	
①水処理の安定性	- 各グループとも、経験・実績を踏まえた安定性のある水処理方法が提案されている点等を評価した。 - 特に、あおグループは、膜の長寿命化について提案されている点等を評価した。
②資源化システム	各グループとも、経験・実績を踏まえて、品質の安定した堆肥製造が可能なシステムが提案されている点等を評価した。

審査項目		講評
		・ 特に、みどりグループは、堆肥の品質確保について、具体的な提案がされている点进行评估した。
	③臭気対策	・ 各グループとも、具体的な臭気対策が提案されている点等进行评估した。
	④搬入物の質や量の変動に対する対応力	・ 各グループとも、搬入物の質や量の変動に対する安定的な処理を実現するための具体的な方法が提案されている点等进行评估した。
3 運営・維持管理に関する事項		
(1)運営・維持管理体制		
	①運営・維持管理体制	・ 各グループとも、代表企業からの支援を元に、運営・維持管理体制と計画が提案されている点等进行评估した。 ・ 特に、あおグループは、モニタリング方法、緊急時の体制、事業期間終了後の明渡し前の体制等、具体性のある提案がされている点进行评估した。
(2)長寿命化対策		
	①設備・機器の長寿命化対策	・ 各グループとも、具体的かつ実効性のある長寿命化対策と予防保全を主体とした点検・補修計画が提案されている点等进行评估した。 ・ 特に、あおグループは、コンクリート構造物の劣化に対する対応や PDCA に沿った点検・補修、膜の長寿命化が提案されている点进行评估した。
(3)維持管理性と作業安全性の確保		
	①維持管理性と作業安全性の確保	・ 各グループとも、他施設の実績を踏まえて維持管理を効率的、容易にする配慮と作業員の安全を確保する設計・対策が提案されている点等进行评估した。 ・ 特に、あおグループは、運転管理体制や監視体制が最も具体的に提案されている点进行评估した。
4 自由提案		
	(1)大項目 1～3 以外の自由提案	・ 各グループとも、独自の提案がされている点等进行评估した。 ・ 特に、あおグループは、地域の実情に沿った実現性、妥当性共に高い提案がされている点进行评估した。

4 入札価格の定量化審査

提案書の定量化審査の得点確定後に、提案書等を提出した各入札参加者及び選定委員会の委員立会いのもとで平成30年7月31日に開札を行い、予定価格の範囲内であることを確認した。

選定委員会は、開札結果の報告を受け、入札価格の定量化審査に関する得点化を行った。得点化の結果は、表11のとおりである。

なお、入札価格の定量化審査に関する得点化については、表12に示す予定価格及び定量化限度額に基づいている。

表11 入札価格の定量化審査の得点結果

項 目	配点	あおグループ	みどりグループ	きいろグループ
代表企業名	—	日立造船株式会社 東北支社	水ing株式会社 東北支店	三井E&S環境エンジニアリング株式会社
入札価格(税抜)	—	8,372,000,000円	8,700,000,000円	8,170,000,000円
設計・建設業務に係る対価	—	4,274,000,000円	4,900,000,000円	4,320,000,000円
運営・維持管理業務に係る対価	—	4,098,000,000円	3,800,000,000円	3,850,000,000円
入札価格の定量化審査の得点	40点	38.18	38.08	39.52
設計・建設業務に係る対価の得点	15点	15.00	13.08	14.84
運営・維持管理業務に係る対価の得点	25点	23.18	25.00	24.68

表12 予定価格及び定量化限度額

	予定価格	設計・建設業務 に係る対価の内訳額	運営・維持管理業務 に係る対価の内訳額
予定価格(税込)	10,234,080,000円	5,298,480,000円	4,935,600,000円
入札書比較価格(税抜)	9,476,000,000円	4,906,000,000円	4,570,000,000円
定量化限度額		3,924,800,000円	

※定量化限度額は、消費税及び地方消費税額を含まない。

5 総合評価値の算出

平成 30 年 7 月 31 日に、定量化審査により算出した「提案書の定量化審査の得点」、「入札価格の定量化審査の得点」を加算して、表 13 のとおり総合評価値を算出した。

表 13 総合評価値の算出結果

入札参加者		提案書の 定量化審 査の得点 (A)	入札価格の 定量化審 査の得点 (B)			総合 評価値 (A)+(B)
受付 グループ名	代表企業名			入札価格(税抜)	対入札書 比較価格	
あおグループ	日立造船株式会社 東北支社	46.88 点	38.18 点	8,372,000,000 円	88.3%	85.06 点
みどりグループ	水ing株式会社 東北支店	33.80 点	38.08 点	8,700,000,000 円	91.8%	71.88 点
きいろグループ	三井E&S環境エンジニ アリング株式会社	27.83 点	39.52 点	8,170,000,000 円	86.2%	67.35 点

6 最優秀提案者の選定

選定委員会は、上記の結果に基づき「あおグループ（代表企業：日立造船株式会社 東北支社）」を最優秀提案者として選定した。

第4章 総評

連合は、保有する久慈地区し尿処理場の老朽化に伴い、し尿等の適正処理の継続に加えて、地域の資源循環や環境負荷低減に資する施設として、新たな施設の整備を計画してきた。

事業方式については、これまでの既存施設で採用してきた公設公営方式から、民間の創意工夫による提案を取り入れた良質な設計・建設業務と、安全で効率的かつ効果的な運営・維持管理業務を実施することを目的として、施設の設計・建設及び運営・維持管理を一括して事業期間を通して発注するDBO(Design - Build - Operate)方式を採用した。

本事業では、事業期間に渡ってし尿等の適正処理や周辺環境の保全を前提としつつも、連合構成市町村（久慈市、洋野町、野田村、普代村）の循環型社会形成を担う中核施設として、地域の資源循環に寄与するとともに、施設来訪者や作業者の安全面への配慮や長期的な視点からのコスト削減と安定的運営等に配慮した施設の整備・運営を行うことが求められている。

このような背景を踏まえ、選定委員会は、総合評価一般競争入札により最優秀提案者を選定するに当たって、透明性、公平性に最大限配慮し、事業者選定のための審査を実施した。

今回、入札に参加した3グループの提案は、いずれも本事業の目的や各業務の内容について連合が要求する水準を上回る提案内容であった。

3グループにおいては、提案内容が多岐にわたることから、提案書の作成において多大な労力及び費用負担があったことが想定される。そうしたなかで提案をまとめた応募者の熱意及び姿勢に敬意を表するとともに、深く感謝する。

審査においては、提案書及び入札価格に対して厳正なる審査を行った結果、日立造船株式会社 東北支社を代表企業とするあおグループを最優秀提案者として選定するに至った。

あおグループの提案については、連合管内の地域貢献や資源循環に資する具体的かつ計画性、実行性の高い計画が提案されている点が特に高く評価された。

選定委員会の審議において、上記の事項を評価する一方で、あおグループの提案内容に対して、以下に示す配慮・要望事項が挙げられた。

- ① 施設の稼働開始時期を遵守するとともに、要求水準事項及び提案内容を確実に履行すること。
- ② 代表企業及び構成企業の豊富な経験・実績に基づいた施設の効率的な設計・建設に努め、運営・維持管理期間を通じて、し尿等の確実な処理、周辺環境の保全、万全な災害対策、施設の安定稼働及び30年以上の使用を前提とした長寿命化を実現すること。また、施設全体の運転管理の効率化やリスクの発生に対する予防に万全を期すこと。
- ③ 施設への来訪者が利用しやすく、作業者の安全に配慮した施設を目指すこと。また、積雪寒冷地であることを考慮し、建屋の落雪対策や氷柱・雪庇の発生による外壁や窓等への破損が生じないように十分配慮すること。
- ④ 地域の資源循環に寄与するため、高品質の堆肥の安定的な製造に努めるとともに、長期に渡って確実な利活用が行われるように必要な施策を講じること。また、水処理や資源循環に関する活動を通じて地域の環境教育に努めること。
- ⑤ 連合や地域住民との間に信頼される良好な関係を構築するとともに、事業期間を通じて継続的に地元雇用や地元発注に努め、地域経済の発展に寄与すること。

最後に、事業期間を通じて連合とあおグループが良きパートナーとなり、地域との信頼関係を築きながら本事業を計画的かつ適切に推進することを希望する。

また、上記の配慮・要望事項について、入札及び契約の公平性を妨げない範囲において本事業をより良いものとするために連合と十分な協議を行い、真摯な対応に努め、今後の事業期間にわたり質の高い公共サービスを提供するよう期待する。

平成30年8月

久慈地区汚泥再生処理センター整備・運営事業者選定委員会 委員長 荒井 喜久雄